

オスプレイ来るな！いらな！

木更津に暫定配備の危機

沖縄の米軍オスプレイ 24 機の、そして自衛隊がこれから導入する 17 機のオスプレイの整備拠点となっている木更津駐屯地のある木更津で“オスプレイ来るな、いらな！”の集会が開かれました（2019・5/25）。市民グループから木更津への自衛隊のオスプレイの暫定配備が喫緊の課題であると示されました。

5月24日には防衛副大臣が木更津市と千葉県を訪れ「木更津駐屯地に佐賀県に配備予定の陸自の17機のオスプレイの暫定配備をしたい」と伝えました。



オスプレイ来るな いらな！住民の会

木更津が選ばれた理由として①オスプレイの運用に必要な 1500m という長さの滑走路がある②オスプレイ 17 機を配備できる余積を有している③既存配備機の運用への影響が最小限④既存の施設が利用可能⑤早期に運用できる⑥水陸機動団の佐世保までの距離が近い、をあげての要請でした。

この要請が“決定ではない”こと“恒久使用ではない”ことが市長・議長によって確認されましたが木更津市側からは“反対の意思”は示されませんでした。

市民団体はこれらの状況に対して事実関係を把握し説明を求めていきたいとのこと。

このような状況下での「前岩国市議会議員田村順玄さんの講演」。

田村さんは岩国基地が厚木基地からの59機の米艦載機の飛来で極東一の基地になっている現状を示しました。オスプレイが米国から始めて陸揚げされたのが岩国（ここから普天間へ）。そして岩国を中継して日本全土へオスプレイが飛んでいく。F35Bが日本で初めて配備されたのも岩国基地。

岩国基地の以前からのジェット機騒音を解消する為に 2500 億円をかけて滑走路を沖合に出したら基地は 1.4 倍の広さに拡大。ジェット機が増えて騒音は増加。埋立て用の土砂を掘削した愛宕山は米兵の住宅地に（262 戸）。確かに米軍基地拡充の反対給付として国からは交付金が出され岩国の学校給食はタダ、医療費もタダ。このように甘いアメもばらまかれるがその結果“戦争の時の最前線基地になってしまうリスク”を抱えることになってしまっていますと。

そして岩国市民・市政もこのような騒音やリスクの状況に感覚的に麻痺してしまっているとのこと。

日本政府も米軍も岩国基地でやったこと・試したことを沖縄でやっている。だ

から辺野古新基地建設に問題があって工事が延びたとしても岩国基地を使えばいいと思っていると、岩国基地と沖縄の基地とそして日本全土の基地との関係を分析しました。

木更津についても、暫定配備が少しずつ出されて最後には撤去できず基地機能の強化になってしまうのがこれまで岩国基地が経験したこと。だから“木更津にとって今が正念場”と指摘。岩国のようにになったら首長は防衛省が気に入った人になってしまい“地方自治としての機能はなくなってしまう”とも警鐘を鳴らしました

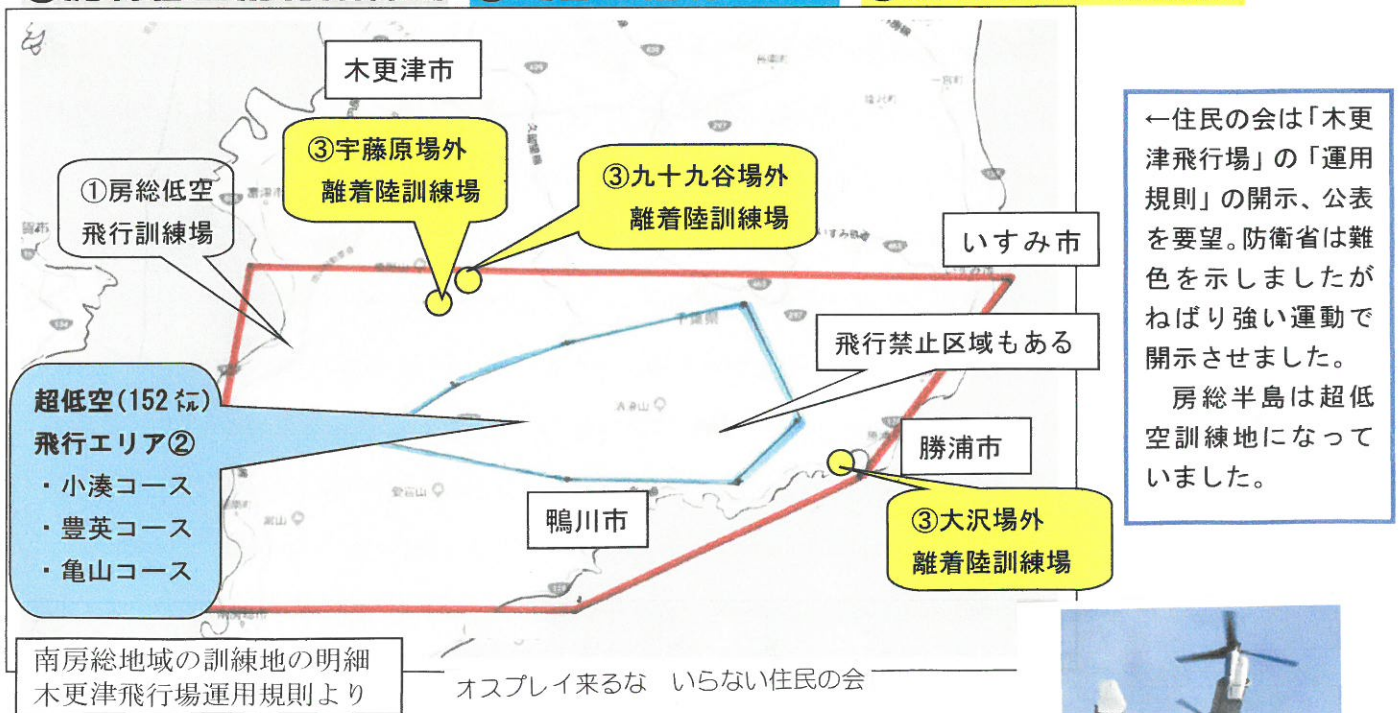


最後の会場からの質疑の中で今回のオスプレイが木更津に暫定配備されると既存の木更津駐屯地のヘリコプター団と同じ訓練がなされることが明らかになりました。木更津飛行場運用規則で明らかのように“君津～夷隅～鴨川～館山の房総半島が低空飛行訓練場”であり“超低空飛行エリアが房総丘陵に”あるのでここでオスプレイが低空・夜間飛行訓練をすることが明らかなのです。更に、米軍横田のC V-22 オスプレイが自衛隊と共同訓練ともなれば首都圏でオスプレイがわがもの顔で飛び回るのは必定・・・

「オスプレイは来るな！ いらない！」の声を大きく広げていきましょう。

“民主主義と自治そして平和主義” ふじしろ政夫 047-445-9144

①房総低空飛行訓練場 ②超低空飛行エリア ③場外離着陸訓練場



「2019年3月5日 岩国・戸村良人さん撮影」